

久留米 (March 6, 2024)
高専通信
第98号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 松村 晶

卒業生・修了生に贈ることば 『小森野を巣立つ皆さんへ』

久留米工業高等専門学校本科の卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。それぞれ15歳からの5年と7年ー(中にはさらに勉強熱心だった学生さんもいますが)ーという、青少年から大人に成長していく重要な時期を小森野キャンパスで同年の級友らと喜怒哀楽を共感しながら勉学に励んでこの日を迎えました。

本科卒業生が本校に入学した今から5年前の2019年を思い出しています。この年は平成31年として始まり、5月1日に徳仁親王が天皇に即位して令和元年となりました。新時代の始まりでした。7月には、京都アニメーションがガソリンで放火されて従業員36名が亡くなるという痛ましい事件が発生しました。本年1月25日に第一審の判決が出たので、改めてこの事件の記憶が蘇りました。2019年の10月には消費税率が8%から10%に上がり、11月になると中国・武漢市で原因不明のウイルス性肺炎が確認されたとニュースで小さく報道されましたが、その後新型コロナウイルスSARS-CoV-2を病原体として急性呼吸器疾患などを引き起こす感染症COVID-19として瞬く間に世界に広がってしまいました。このパンデミックによって、2020年の2月ごろから昨年の5月までの3年以上の長期間にわたって、途中で緩急が何回もありましたが、感染拡大抑止のために我々の行動が様々な規制されて不自由な生活を余儀なくされました。特に人が集まることへの制限が厳しく、学校生活に大きな影響が出てしまいました。卒業・修了生の皆さんの在学期間の大半がこのパンデミック期間と重なり、長く級友や先輩、後輩との共同作業や交流が思うように

できず、懇親を広めかつ深めることが十分できなかったと感じていることでしょう。さらに、高専祭をはじめとする様々な学生行事やインターンシップなどの校外活動が十分にできずに、在学期間の思い出を多く残すことができなかつたと残念に思っているかもしれません。

青春を思う存分謳歌できる高専での学生生活をフルスペックで楽しめなかつたのは極めて残念ですが、皆さんの前にはこれから前途洋々とした未来があります。食生活や衛生環境の向上、医療の進歩などによって我々人類の平均寿命は近年大きく延びて、日本では人生100年と言われていています。皆さんの世代ではさらに長くなるでしょう。皆さんには平均して今までより4倍以上も長い人生が待っています。これからも前向きに人生を楽しむことを忘れずに歩んでください。皆さんにはそれができる素養を本校で培っていると私は確信しています。本校卒業生の同窓会などに参加する機会が少なからずありますが、毎回どこでも多くの先輩諸氏が集まり和気藹々と賑わいます。本校の卒業生は本当に明るく前向きで積極的です。

高等専門学校は1962年にわが国独自の高等教育制度として設立され、一昨年の2022年が高専制度創設60周年でしたので昨年度はそれを記念する様々な取り組みや行事が行われました。その中で高等専門学校のこれまでの歩みと発展が総括されるとともに、将来に向けた新たな方向性も示されました。それを端的に表すものが、高専制度創設60周年記念のキャッチフレーズです。それは「たゆまぬ挑戦、飛躍の高専！」です。このキャッチフレーズは高専生ならびに高専で

勉強した卒業生の全員に当てはまるでしょう。60周年を迎えて改めて高専の存在と意義が見直されており、今高専には多くの方々から強い期待が寄せられています。それはすなわち、高専の卒業生である皆さんに熱い期待が寄せられていることに他なりません。

20世紀において人類はそれまでに得てきた科学的知見を基に大きく文明を発達させて、豊かな近代社会を創り上げました。この時は右肩あがりの成長を基軸とするものでしたので、ほとんどにおいて万人にわかりやすい目標に向かってまっすぐ進むことができました。ロケットの打ち上げで推進力が必要なのは最初だけで、しばらくするとブースターロケットは切り離されて重力などを利用して予定の軌道上を進んで月や火星などに向かって行くのに似ています。宇宙空間はほとんど障害物がなくその先の軌道が予測可能だからできることです。ここでの打ち上げ推進力を少々乱暴ですが学校で培った専門性と見做すなら、卒業後もその延長線上にある専門分野で活躍し続けることに例えられるかもしれません。

しかし、21世紀に入ると、文明社会の営みによる地球環境への影響や増え続けるエネルギー消費など、負の側面が顕になってきました。さらに、情報化社会の発達によって、人類がこれまで長年かけて構築してきた様々な社会システムや生活様式も大きく変わろうとしています。最近のAIは人類の知性が及ばないところを補うまでに発達してきています。今後さらに発展することは間違いありません。加えて、人口増加と地球規模の人的交流の拡大によって、COVID-19のような新たなパンデミックの危険性が益々高くなっており、人類社会の発展に大きな影を落としかねません。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への攻撃とそれに伴う中東情勢の不安定化のように、第2次世界大戦後に築かれた世界秩序が大きく揺らぎ始めています。

これから皆さんが活躍する社会の今後の発展・展開は、科学技術だけでなく様々な社会情勢の影響が複雑に加わって予測がつかません。高度な文明社会を支えて新たな展開を切り開く工学の内容や位置づけについても、今後の展開は同様に予測不能とされています。すなわち、工学そのものの目的や要素技術の使い道が従来のようにはっきりと決まらずに、時とともに大きく変わっていく可能性が十分にあります。目的志向の目的に縛られた価値観はもはやこれからの時代に合

わなくなっており、新たな価値の創造が求められています。これは挑戦のチャンスです。

高専では工学の理論と実践の両方をバランスした専門教育に加えて、実験・実習・コンテストを多用した実務教育に注力しています。高専卒業生の皆さんは身につけた知識や技術を、目の前にある課題に実践応用する経験を少なからず持っています。そのことはこれからの新たな未知の課題と対峙した時や新たな価値を生み出すのに大きな力になるでしょう。皆さんは高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって、いい意味のプライドとして前向きに意識してこれから存分に活躍してください。

私が久留米高専の校長に着任して2年が経ちました。この間に、それまであまり顧みられていなかった本校の校歌に皆さんが慣れ親しんでもらうように、機会があるごとに働きかけてきました。皆さんの本校での5年あるいは7年の生活と成長は、これからの人生において大きな刻印となっています。校歌は久留米高専生と卒業生全員の時代を越えた共通の合言葉です。一人で歌うものではありません。今までは常に級友が周りに居ましたから、校歌を歌う必要はありませんでしたが、これからは久しぶりに再会した同級生だけでなく、初めて会う先輩や後輩とも校歌を一緒に歌うことによってすぐ気心が知れるはずですよ。そのことは皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。さあ、皆さんで校歌を歌いましょう。



卒業生の言葉

編入試験を通して得られたもの

機械工学科 5年 黒川 溪太

私たち5年生は卒業し、就職する人と専攻科や大学に進学する人に分かれます。私は大学へ進学しますが、進学が決まるまでの道は決して平坦なものではありませんでした。今回はそんな編入試験を通して得ることのできた大事なことについて述べていこうと思います。

1つ目は一緒に勉強する友達です。私は最初、一人で勉強することがほとんどでした。その結果、得られる情報が少なく、どのくらい勉強すればいいのかもわからなかったため、専攻科の前期試験と併願の大学に落ちてしまいました。そこで、私は一緒に入試を受ける友達を見つけました。仲間がいることでモチベーションになるだけでなく、過去の共有や情報交換を行うことができます。その結果、私は専攻科の後期試験に合格するだけでなく、行きたい大学を見つけてその大学も合格することができました。

2つ目は勉強のできる環境を見つけることです。私は家での勉強はあまりはかどるタイプではなかったため、研究室や学校の図書館の自習スペースで勉強していました。家以外の場所でやることによって生活のリズムが整い、誘惑が少なくなってより集中することができます。また、私は学校の図書館での集中が切れたら研究室に場所を変えて勉強するように勉強できる場所を複数見つけました。複数見つけることによって気分転換で他の場所で勉強することが可能になり、勉強できる量をより確保することができます。

3つ目は最後まで諦めないことです。私は二度も入試に落ちてしまい、進学を諦めようかと考えていました。そんな中、私はあるサッカー選手に感銘を受けました。その選手は横浜F・マリノスに所属する宮市亮選手です。宮市選手は何度も大怪我を負いましたが、何度も怪我を乗り越えて復活してきました。このことから私は最後まで諦めないことの大切さを学び、入試に向けた勉強を続けることができ、合格を勝ち取ることができました。

以上の3つのことを編入試験を通して得ることができました。編入試験は自分自身との戦いでとても大変なものでした。しかしながら、一緒に試験を受ける仲間がいることでモチベーションになりました。勉強できる環境を見つけることでより集中して試験勉強ができました。最後まで諦めなかったことで合格を勝ち取ることが出来ました。私はこの編入試験で得ることのできた経験を生かして、大学の定期試験や大学院の入試も頑張りたいと思います。最後に一緒に専攻科の試験勉強をしたKさんや大学を教えてくださいましたF君、応援してくれた全ての皆さまに感謝します。本当にありがとうございました。

もし戻れたら…

電気電子工学科 5年 末續 藍人

私は何度か、友達と「もし、中学3年生に戻れたらもう一度この学校に入学するか?」といった話をしたことがあります。この話題は、圧倒的に少ない女子の数とそれからくる青春の枯渇、幾度となく訪れるレポートの締め切り、地元の友達の華やかな高校生活や大学生活への羨望など、こういったものからくる、「どこで自分は道を間違えてしまったのだろうか」という疑問によって生み出されたものです。在学している皆さんはこの話題にどういった答えを出すのでしょうか?きっと多くの人が「もう一度この学校に入学する」と答えるでしょう。僕もそう答えます。それは、この学校でかけがえのない仲間たちと出会うことができ、そして、その仲間たちとの忘れることのできない最高の思い出があるからです。

皆それぞれ新しい環境で探り合いながら、お互いを知ろうとしていた1年生。中には舐められまいと、尖っている奴もいました。『人生勝ち組』そいつがクラスTシャツに刻んだこの痛々しい文字列は一生忘れることができません。

少しずつ環境に慣れてきた2年生。放課後は、いつも日が暮れるまで友達としゃべり続けていました。話した内容はあまり覚えてないけれど、楽しすぎて一生この時間が続けばいいのと思ったのを今でも覚えています。そしてこの年は、新型コロナウイルスが流行し始めた年でもありました。5年間の中で一番退屈な時間が長かった年であるともいえます。

あっという間に訪れた3年生。文化祭の出店を通じてクラスの仲がより深まった年です。みんなで作り上げたウマ漢、前夜祭前日に編集と、実況の声入れが間に合わず、編集担当の子と徹夜で作業し、その状態で前夜祭に臨みました。楽しかったけどきつかったです。もう二度とあんな思いはしたくない。しかし、そんな努力の甲斐あってか、展示部門では優勝を飾ることができました。

受験を意識し始める4年生。この年が一番クラスの定期テストへの意欲が高かったように思います。将来についてしっかりと考えていなかった私が、最も悩まされた時期でもあります。周りのみんなが勉強し、先に進んでいるのを見て焦りを感じ、少し不安定になっていました。そんな時に親身になって話を聞いてくれた担任の原田先生には頭が上がりません。

そして5年生。思い出にするにはまだ早いですが、受験での失敗、受験から解放されたときの喜び、体育祭に向けての準備、文化祭での女装コンテスト優勝、級友に初彼女ができる。今考えると最も濃い一年になっていると感じます。

やはり、こう振り返ると私の思い出はここで出会った仲間と、ここでしか体験できないもので埋め尽くされています。たとえ中学3年生に戻っても、私はもう一度この学校に入学したいと思います。

卒業生の言葉

久留米高専で挑戦する研究活動

制御情報工学科 5年 近藤 碧

久留米高専で5年間を過ごす中で、高専に2つの側面が存在することを発見することができた。それは、部活動や学級活動などの、中等教育機関的な側面と、授業や研究などの、高等教育機関的な側面である。これらは、中学卒業後から行われる5年間の一貫した教育という、高専の持つ特徴によりもたらされるものである。これにより、大学では体験することができない部活動や、高校では体験することができない研究活動の2つを、5年間の中で本気で取り組むことが可能である。本稿では、私が高専で最も熱心に取り組んだ研究活動について、思い出も交えて論じたいと思う。

私は、4年生の時に総務省が主催する「高専ワイヤレスIoTコンテスト」(以下「WiCON」)という、無線技術を用いて社会課題を解決するコンテストにチームリーダーとして参加した。このコンテストは、研究費をいただきながら、解決したい問題の発見から解決案の社会実装までを、学生が主体となって行うものである。

我々のチームでは、問題設定にて、久留米高専のそばにある筑後川で近年頻発する内水氾濫を問題として考え、被害を抑える解決策として、内水氾濫の危険度を可視化するシステムを考案した。これは、プロジェクト開始前から実装が難しいことが予想される課題であった。しかし、高専の自由な学風の中で感じた、学生だとしても、主体的に行えば大抵の目標は達成可能であることを思い出し、実装前から諦めること無く、採択の可否を決めるプレゼンにて、堂々と解決法を論じることができた。

実際にシステムなどを構築する実装では、高専で学んだ数学やプログラミング、電気回路などの、専門的な授業が非常に役に立った。例えば、プロジェクトを進める中で、知らないプログラミング言語でコードを書く必要が出てきた時でも、1・2年で取り組んだプログラミングの授業を思い出すことで、言語の特徴を素早く理解することができ、すぐに言語を習得することができたことが印象的である。これは、授業において、コンピュータの仕組みなどの、基礎的な部分から説明が行われたため、言語に囚われずに根本から理解することができていたためであろう。

実装したシステムを道路などに取り付ける実証実験では、久留米高専が持つブランドを最大限に活用し、産官学連携で行った。様々な機関を巻き込みながらプロジェクトを推進したことで、インパクトのある結果を残すことができたと思う。

WiCONの中で感じた研究の面白さは、私の進路の軸にもなっており、卒業後は研究者を目指して、研究活動を行っていきたくて考えている。高専で学んだことは一生の指針になるだろう。これらの思い出と共に、将来を切り開いていきたいと思う。

高専生活を振り返って

生物応用化学科 5年 緒方 公伽

この春、私たちは高専生活を終え、たくさんの思い出の詰まった学び舎を巣立ちます。入学した当初は長いと思っていた高専生活も一日一日が過ぎ去り、気づけば卒業の時を迎えようとしています。この5年間を振り返って思うのは、あっという間でそれでいて濃い5年間だった、ということです。そして、この充実した日々はたくさんの仲間を支えられたものでした。

入学式の日、新しい環境に飛び込む不安を抱え緊張して迎えたことを今でもハッキリ覚えています。しかし、その不安も長くは続きませんでした。積極的に声をかけてくれた級友のおかげですぐに打ち解けることができ、楽しい5年間になることを確信しました。実際たくさんの楽しい思い出をつくれた5年間だったと思います。多くのことに取り組み、経験を積むことができました。

特に印象に残っているのは、4年生のときに高専祭で学科公開実験の運営を務めたことです。準備に忙殺され、うまくいくのか不安でいっぱいでしたが、一緒に代表をしてくれた級友はもちろん、自身も忙しい中手伝い、励ましてくれた友人たちに力づけられました。級友をはじめ、先生方や先輩方、後輩たちにも支えられたおかげで無事に成功することができたと思います。このときの達成感はずいぶん涙するほど忘れられないものになりました。

高専での5年間を振り返ると、そこにはいつも一緒に頑張った仲間の姿があります。協力して実験に取り組んだ日。難しい授業内容を議論した日。一緒に対策を練った試験前。レポートに押しつぶされそうになりながらも励まし合って立ち向かった日。イベントの成功に向け奔走した日。その成功に喜びを分かち合った日。そして何気ない日常の日々。楽しいことも大変なことも仲間と共に駆け抜けてきました。一瞬一瞬が大切な宝物です。

私たちはこれから、それぞれの新しい道を進んでいくこととなります。分からないことだらけの未知の世界、手探りで進むことに、不安に駆られることも多くあるでしょう。ただ一つ言えるのは、高専で過ごした日々が私たちの背中を押してくれるということです。高専で培ってきた経験と、挑戦を忘れない気持ちで一歩一歩進んでいきます。

最後になりましたがこの場をお借りして、先生方をはじめとした関わって下さったすべての方々に感謝申し上げます。勉強だけでなく、これからの人生の糧となるさまざまな経験を積ませていただきました。たくさんの学びの機会をありがとうございました。そして生物応用化学科と一緒に頑張ってきたみんな、本当に本当にありがとう。高専という場で出会い、共に過ごせて幸せでした。これからの進路はさまざまだけれども、それぞれのステージで頑張りたいと思います。

卒業生の言葉

久留米高専での5年間

材料システム工学科 5年 田中 優希

気づけば5年間が終わり、卒業を迎えようとしています。思い返せば、長いようで短い5年間でした。材料について何か知っているわけでもなく、勉強についていけるのか、楽しく学校生活を送れるのか、そんな不安を抱えながら入学したことを今でも覚えています。

今では当たり前になった90分の授業時間も1年生の頃は、中学校の約2倍の授業時間がとても長く感じていました。体育祭や文化祭などのイベントを通して少しずつ同学年と仲良くなりながら新しい学校生活がスタートしました。

慣れてきていた生活もコロナ禍でまた新しくなった2年生。数学や物理が難しく、この年から初めて専門のレポートを経験するようになりました。この頃はまだレポートの枚数もA4用紙が10枚超えると今回頑張ったなと感じていたように思います。

専門の教科が一気に増えた3年生。この年から棟も変わり、材料のことやそれに関することを多く学び始めました。試験の教科数も多く、0から勉強することは大変でしたが、このとき頑張ったことが今につながっていると感じます。

進路のことを考えながら人生で一番勉強を頑張った4年生。妥協しようにもできない年で大変でしたが、一緒に乗り越えるクラスメイトがいたから頑張れたと思います。また、この頃になるとレポートも実験のものや課題のものなど忙しくなり、20枚、30枚となることもありました。

そして、卒業迫る5年生。体育祭に文化祭、この5年間で1番イベントを楽しみました。楽しい時間を過ごした友達とも別れの時が迫っています。こうして振り返ってみると、入学当初の不安は何だったのだろうと思うくらい高専5年間の生活は楽しかったです。高校に比べて、高専だから大変なこともあったけど、高専だからできたことも数多くありました。そして、当時大変だったことも今となってはクラスメイトとの良さ思い出です。

また、私の中で高専生活において外せない思い出は部活動です。私はサッカー部に所属しており、先輩、同学年、後輩、先生方など多くの方々に恵まれました。チーム全員で頑張ってきて、昨年は高専大会全国準優勝、今年は遂に全国優勝を成し遂げることができました。成績だけ見れば順風満帆な結果に見えるかもしれませんが、決して楽な道のりではなく、チームとして苦しい時期も経験しながらチームとしての形、目標を作っていました。だからこそ、今年の全国優勝という結果は言葉にできないくらい嬉しいものでした。

最後に、勉強やレポートなど多くの面でご指導いただいた先生方、楽しい高専生活を築いてくれた同級生、先輩、後輩、支えてくれた家族に感謝申し上げます。ありがとうございました。

修了生の言葉

これまでとこれから

機械・電気システム工学専攻 2年 大久保 翔司

7年間の高専生活を終了するこの瞬間に言葉を紡ぐことが、私にとって非常に感慨深いものとなります。2017年に久留米工業高専に足を踏み入れてから、機械工学科での5年間、そして専攻科での2年間。この長い学びの旅路が、今日の卒業という記念すべき日と新たな一歩に繋がる瞬間です。

本科機械工学科での5年間は、社会に貢献できるエンジニアとなるべく一般科目に加え、加工実習や機械専門の授業を通して知識の海に飛び込み、技術の深みを探りながら、仲間たちと共に競い合い、成長していくことができました。機械のことなど何も知らなかった私たちは先生方の温かいサポートと、同級生たちとの協力によって、様々な課題や実験に挑戦し、自らを試し、発展させていくことができました。

本科卒業後にさらなる発展した知識を求めて専攻科へ進学して過ごした2年間は、機械工学に関するより専門的な知識だけでなく、専門以外の学修を通して他学科との交流することで様々な意見や知識を交換することができ、材料や化学などの自分の専門以外の知識に触れることができる貴重な時期でした。また先生方の熱心な指導のもと、専門領域での研究や学会での発表に挑戦し、新たな視点で技術にアプローチすることができました。この専攻科での経験が、私のキャリアにおいて大いに影響を与えました。

そして、この7年間の学びを締めくくる卒業の瞬間。感謝の気持ちが胸を満たします。先生方には心からの感謝を捧げます。私たちが成長し、将来に向かって進む力強い背中を示していただき、本当にありがとうございました。同窓生の皆さんにも心から感謝します。共に学び、笑い、涙し、励まし合った仲間たちがいたからこそ、今の私がいいます。この学び舎で培った経験や知識は、私にとっての宝物であり、これからの人生での支えとなることでしょう。卒業を迎える今、専攻科卒業後の新たなステージが待っています。企業への入社は、私の夢に向かって更なる挑戦をする素晴らしい機会となります。新しい環境での学びと成長が、私にとっての次なる冒険です。新たなステップに進むことで、これまでの学びや経験を生かし、また新たな挑戦に向かっていきます。

私の目標は、技術と創造性を結びつけ、社会に新しい価値を提供することです。これからも努力と情熱をもって、夢に向かって進んでいきます。いつになるかわかりませんが同級生そしてお世話になった先生方とまた全員で再会し、これまでの学びと感謝の気持ちを共有できることを楽しみにしています。久留米工業高等専門学校先生方、同窓生、そして仲間たちに心より感謝し、これからも共に歩いていくことを誇りに思います。おめでとうございます。

修了生の言葉

7年間の高専生活を終えて

物質工学専攻 2年 清水 侑樹

22年の人生の約1/3である7年間で久留米高専で過ごしましたが、本当にあつという間だったように感じます。往復80kmを電車と自転車で7年間通ったお陰で、電車の中でレポートも書けるようになりましたし、目薬もさせるようになりましたし、到着駅で目覚められるようにもなりましたし、自転車の運転も上達しました。7年間で振り返ると、高専祭やクラスマッチ、高専大会など仲間との懐かしい思い出がたくさん思い浮かびますが、この場では、自分を成長させてくれた3つについて綴ろうと思います。

一つは、部活動です。本科の5年間バドミントン部に所属し、仲間と切磋琢磨しながら汗を流しました。4年時には副部長を務め、一步引いた立場から全体を俯瞰して見る力や、後輩に技術やコツを教えることによる指導力を身に付けることができたと感じています。他学科や他学年の人との繋がりを築くことができたことも大きな財産になりました。

専攻科での研究活動もその一つです。専攻科1年での創造工学実験では、テーマ設定から計画・実験結果発表・論文作成までを行うことで、様々な分析機器の扱い方やSDGsに着目した考え方を習得でき、研究力の向上につながったと思っています。また、メインの専攻科研究においては、専攻科2年で化学系から生物系に研究室を変更するという特殊な道を進みましたが、2分野にわたって実験手法や解析手法を習得でき視野を広げられたと感じています。

もう一つは、学外での活動です。アルバイトや中学校成人同窓会幹事などを通して、人との接し方や言葉遣い、企画の進め方も学ぶことができ、良い社会経験になったと実感しています。もちろん学業が本分ですが、自身のスキルアップのために色々なことに挑戦できるのは高専生の特権ではないかと思っています。

少し話は逸れますが、この頃本科3年生の実験の補助をする機会があり、4年前もう少し意識をもって実験に取り組むべきだったと感じる場面がありました。生物応用化学科では3年生が特に山場と言われており、当時は課題やレポート等に追われる日々を過ごし、ただひたすらに実験をこなしていたように思います。座学で学んだことを実際に実験・実習を通して確認できるところが、高専の魅力の1つでもあると思うので、本稿を読んでくれた本科生は是非意識をもってみてください。

私は、来年度から大学院に進学し、長寿遺伝子に関する研究に取り組んでいく予定です。高専生活で得たものを糧に研究に励むことはもちろん、人との出会いを大切に、様々なことを貪欲に吸収して自分磨きに力を入れていこうと思います。

最後に、7年間の高専生活でお世話になった先生方、学生の皆様、両親をはじめ支えてくださった全ての方に感謝申し上げます。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

機械工学科
5年担任
南山 靖博



卒業生の皆さん、おめでとうございます。5年間の高専生活、本当にお疲れ様でした。エンジニアとしての道を選んだ皆さんは、未来の技術を担う存在です。これからは社会で実践の場に立つ時です。学んだ知識や技術を活かし、新たな挑戦に取り組んでください。困難にぶつかることもあるかもしれませんが、それを乗り越えるための力は皆さんに備わっています。エンジニアとしての道は、常に進化し続けるものです。新しい技術やトレンドに敏感になり、自己成長を続けてください。また、協力やチームワークも大切です。仲間との連携を大切に、共に成長していきましょう。

新たな挑戦へ

電気電子工学科
5年担任
原田 裕二郎



電気電子工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高専での5年間で、未知の挑戦や困難に立ち向かう強さが備わっていることでしょう。今後の人生で、新たな舞台で活躍する姿が見られることを期待しています。

皆さんには、技術者としてだけでなく、倫理的な視点を持ち、社会に対して責任を果たす力も期待しています。未来の発展に向けて、持続可能性や社会の課題に対する解決策を考え、実践していくことで、本当の意味で立派な技術者としてのキャリアを築いていけることでしょう。

皆さんの未来が輝かしいものであることを心よりお祈りしています。

ご卒業おめでとうございます。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

制御情報工学科
5年担任
古賀 裕章



ご卒業おめでとうございます

制御情報工学科5年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。情報工学の分野では、近年Stable DiffusionやChatGPTなど生成系AIが大きな発展を見せています。生成系AIにより皆様が高専で取り組んできたプログラミングやアプリ開発のやり方が大きく変化する可能性があります。

しかしながら、皆様が学んできたことは無駄にはなりません。皆様が修得した論理的思考やプログラミングの基礎的な考え方は、どんなにAIが発展しても必要とされるからです。皆様が、高専5年間で学んできたことを活かして、社会で活躍されることを心よりお祈り申し上げます。今後のご活躍を心から応援しております。

生物応用化学科
5年担任
我部 篤



ご卒業おめでとうございます

卒業おめでとうございます。人生を白い大きなキャンバスに例えた時、卒業を迎えた今、皆さんは何を描いていますか？力強くスケッチしている人もいれば、色を塗り始めている人、手を止めこれから描くべきものをじっくりと考えている人もいるかもしれません。皆さんがキャンバスに描くものは自由です。型にはまらない事で、生み出される多くの事があります。皆さんが高専生活で過ごした日々は型破りの連続だったのではないのでしょうか？イノベーションが急速に求められている社会でそれぞれの個性を大いに活かし、未来を切り開いていって下さい。

私のキャンパスも完成までには程遠いです。みなさんと共に描ける未来を楽しみにしています。

材料システム工学科
5年担任
森園 靖浩



前進あるのみです！

材料システム工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが3年生の1月、突如“担任”として現れて、落胆された方が多かったのではないかと思います。あれから約2年、卒業を迎えるところまで辿りついて、心から安堵しています。コロナ禍ではありましたが、4年次に工場見学を実施できたことはホントよかった！1泊2日だったけど。ギリギリまでコロナに悩まされる一方で、出発当日は大雨で集合場所まで来られない子もいて、なんとか無事に終了して、得られた結論は「前進あるのみ」かな？これからも様々な困難に立ち向かうこととなりますが、皆さんなら十分に戦えます。ご活躍を期待していますね！

専攻科主事
川上 雄士



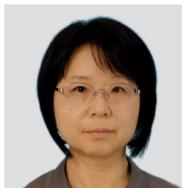
久留米高専は移動祝祭日

『もし幸運にも、若者の頃、久留米高専で過ごすことができたなら、その後の人生をどこで過ごそうとも久留米高専はついてくる。久留米高専は移動祝祭日だからだ。』

2023年は専攻科設立から30周年で、高専祭に合わせ各コースの修了生を招聘し記念講演会を開催した。基調講演をお願いした京都大学の井上先生は講演の最後に、アーネスト・ヘミングウェイの著作である「移動祝祭日」を引用され、冒頭のような言葉でまとめられた。15歳から22歳までのゴールデンエイジを久留米高専で過ごした専攻科修了生は、この移動祝祭日を手中に収めることができる恵まれた人である。これからの長い人生をこの移動祝祭日と共に幸多からんことを祈る。

退職教職員挨拶

一般科目（文科系）
嘱託教授
福田 かおる



総務課
用度係長
福原 一雄



ありがとうございました

常勤教員として19年間、短時間再雇用で2年間、お世話になりました。担任をした学生とは心温まる思い出がたくさんありますが、中には、もっと何かしてあげられただろう、と思う学生もいて反省もしています。

授業では、利発な高専生に良い刺激をもらいました。教員の皆様には、さまざまな局面でご支援いただきました。学科・主事室・委員会等で一緒に仕事をさせていただいた方々には、ご迷惑やご負担をおかけしました。また、事務職員、技術職員の皆様にも、多々助けいただきました。面倒な問い合わせや依頼にも、誠実に対応いただいたことに心より感謝しております。

疲労困憊した時期もありましたが、皆様のおかげで乗り切ることができました。働くということは、周囲の助けを得て成立するものだというのを痛感した21年間でした。本当にありがとうございました。

3年間お世話になりました

総務課用度係へまいりまして、早3年の年月が経過いたしました。事務室の机に向かってみると、窓の外から春には入学式・新学期を迎えた学生さんの活気ある声、夏には子育てに励む鳥のさえずり（窓のそばの木々に毎年巣を作っている模様）が聞こえ、秋には高専祭へ向けて躍動感たっぷりにこだまする応援団の太鼓の音が鳴り響き、毎年、季節を感じながら仕事に取り組みめたことが思い出深いものとなりました。

また、物品調達業務においては、ご心配・ご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思いますが、大きな支障なく業務を遂行できたのではないかと考えております。これもひとえに教職員の皆様のお力添えのおかげであり、心より感謝申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。誠に有難うございました。



機械工学科

機械工学実験：コロナ禍でのリアルタイム配信による遠隔実験（風車性能実験）

令和2年度はコロナ禍のため、座学の講義は当然として、機械工学科4年生の実験科目である「機械工学実験」も遠隔実施で対応しました。機械工学実験は設計工学、加工学、熱工学、流体工学、材料力学、制御工学など機械工学の主要な分野に関わる複数のテーマごとに実施されています。ここでは、その一つである水平軸風車の性能試験のリアルタイム映像配信による遠隔実施の試みを紹介します。

今は普通に遠隔授業ツールとしてMicrosoft Teamsが使われていますが、コロナ禍で本格的に使われるようになりました。紹介する風車実験は、装置が大きく、計測機器の数と配置が一か所に集まっておらず、これがリアルタイム配信での実験実施の最大の問題でした。図1のとおり、実験用風車は送付機出口から約1m下流にあり、トルクと回転数を計測する装置類は風洞送風機脇、発電機に接続された負荷用の複数の白熱電球は風車のさらに下流側に位置し、それぞれ離れた配置でした。遠隔配信する場合、受信する学生は1つの画面で視聴するため、これらを1つの画面に表示させる工夫が必要です。そこで、図1のように2台のカメラを用い、1台で図1に示した実験用風車と白熱電球板を映し、もう1台で図2に示すトルク計用の電流電圧計と回転計の回転数表示器を映しました。これらの映像を同時に映し配信するため、カメラは図3に示した複数のカメラと制御用PCをネットワーク接続しPC上で一括制御して同期撮影ができる特殊なカメラを使用しました。これにより、図4の通りPC上に離れた場所にある2つのカメラ映像を映すことができます。2つの映像を並べて表示できるようになったお陰で、学生は、風車が回って電球が点灯の様子と、各計器の数値を同時に観察できるようになりました。

さらに、実験中の工夫として、図2のように各計測器に付箋紙で計測機器名を示しました。また実験中、送風機の騒音が大きく、音声による説明や測定の指示が聞き取りにくい場合があるため、全ての実験条件を示した付箋紙を予め準備し、条件が変わるたびに付箋紙をめくり、その時々での測定中の条件を確認できるようにしました。

コロナ禍での遠隔実験でしたが、実験が映像配信によるリアルタイムでの実施で教員とのやり取りもあったため、学生の評判は思いのほか良かったです。また、このときの実験動画は今でも活用しています。

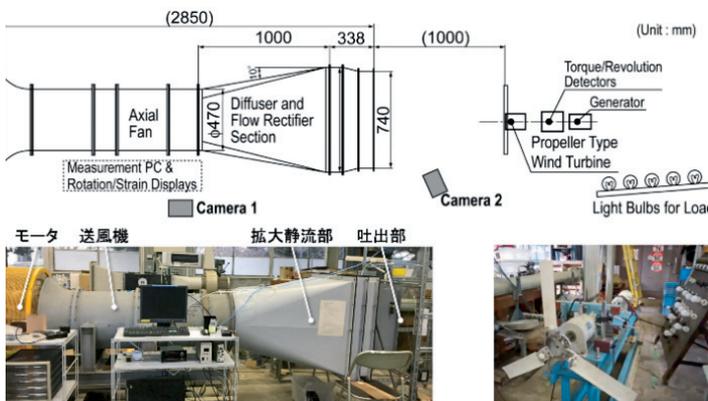


図1 水平軸風車性能実験装置



図2 トルク・回転用 計測装置

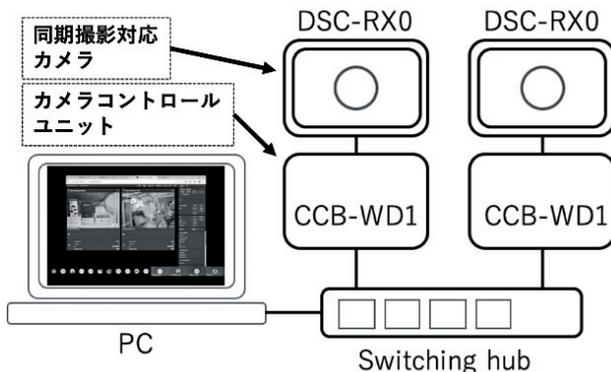


図3 多点撮影用ネットワークカメラ

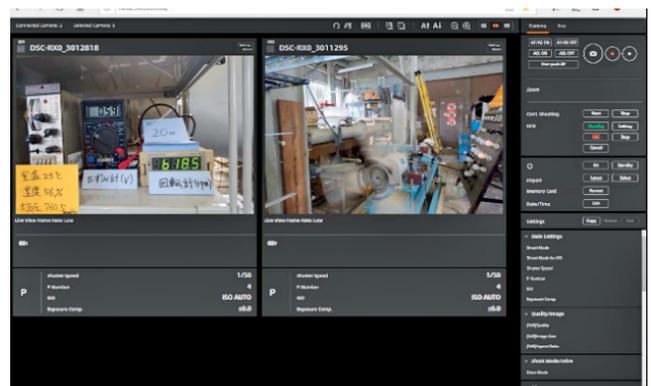


図4 Microsoft Teamsでの映像配信実験

電気電子工学科

電気電子工学科4年生通年科目『電気電子実験2』では、4名程度の班に分かれ、後期分は①太陽光発電と系統連系、②誘導電動機、③同期発電機・電動機、④パワーエレクトロニクス、⑤HDL (Hardware Description Language) による論理回路設計の5テーマの実験を行います。今回は⑤「HDLによる論理回路設計」について紹介します。

論理回路に用いる論理ゲートの動作については、高専通信第96号で紹介しました電気電子工学科3年生後期科目『電気電子実験1』においてハードウェアの実験を行っています(写真1)。「HDLによる論理回路設計」では、論理ゲートの1つであるNandゲート(全ての入力が高の場合のみ出力がLowになり、Lowの入力がひとつでもある場合はHighを出力する)のみを使って、様々なチップ(他の論理ゲート、マルチプレクサ、デマルチプレクサ、半加算器、全加算器、ALU (Arithmetic Logical Unit, 算術論理演算装置))を作成していきます。しかしながら、実際にハードウェアを組むのではなく、HDL (Hardware Description Language) を用いて回路を設計し、できた回路をシミュレータ上でテストを行います(写真2)。学生は、まず技術専門員による説明を受け(写真3)、各自パソコンを使用して回路設計、シミュレータによる動作テストに取り組みます(写真4)。正常に動作すれば成功のメッセージが表示され、一つのチップが完成したことになり、そのHDLのテキストファイルを各自、課題提出物として提出します。

この内容は、Coursera(オンラインで大学や企業が提供するコースが受けられる学習サイト)のプログラミングに関するコースにもなっているNand2Tetrisコースの最初の2章の範囲に対応します。Nand2Tetrisでは、NandゲートからゲームのTetrisを走らせるところまでを学習できますが、本実験ではNandゲートのみを使ってALUまでを設計します。一部分ですがコンピュータシステムを実際を作る作業を行い、コンピュータシステムに対する深い理解につながっています。また、この実験に興味を持った学生は、Courseraのサイトで登録すれば、英語の訓練もかねて講義を受講でき、さらにコンピュータシステムについて学習することができます。

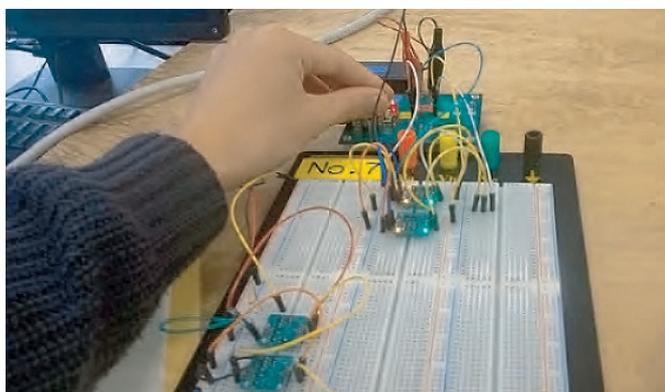


写真1 ハードウェアの実験

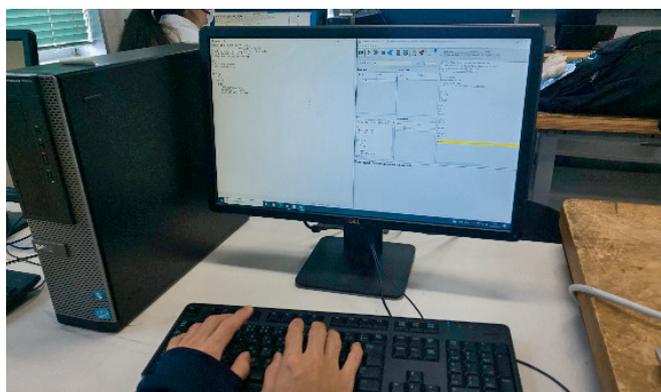


写真2 シミュレータ上でのテスト

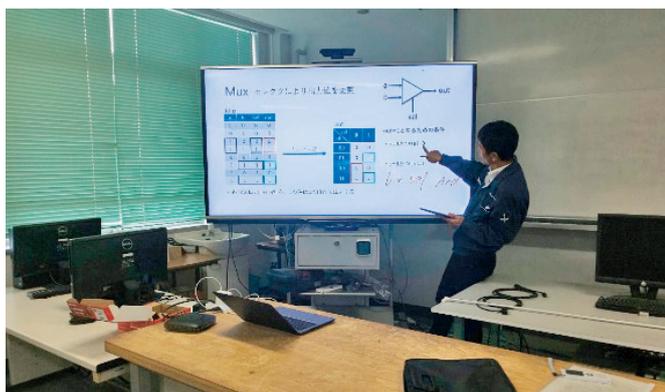


写真3 技術専門員による説明

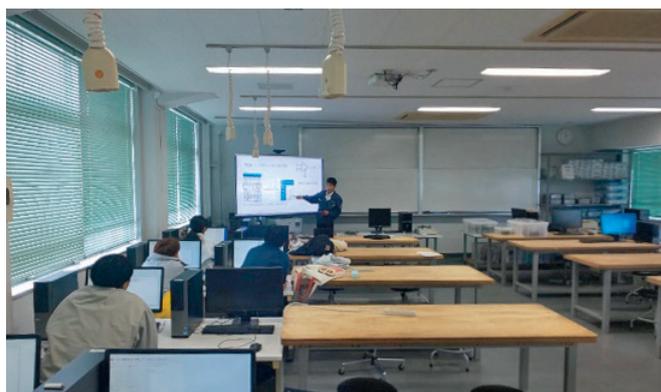


写真4 回路設計、シミュレータによる動作テスト

制御情報工学科

制御情報工学科4年生が受講する課題解決型学習（PBL）の実習である創造プログラミング演習について紹介します。

創造プログラミング演習では、久留米市役所からご提示いただいた行政が実際に抱える課題について、デジタル技術を活用してその解決に取り組んでいます。4人から5人でグループを組み、1グループ1課題に協力して取り組んでいます。これまで取り組んできた課題としては、「保育園での園児の安全や見守り」や「災害時のレンタル資材の管理」などがあります。これらの課題に対して、センサーやラズベリーパイなどのハードウェア、アプリケーションやウェブサイトなどのソフトウェアなどを活用し、課題を解決していきます。電気回路やプログラミング、ソフトウェア工学など4年生までに学習した内容を活用すると共に、課題解決に必要な技術や知識を自分自身で探し、身に付けるという、今後の進路において必要とされる能力を修得するいい機会となっています。また、各グループにはIT企業のメンターが付き、アドバイスをいただくとともに、社会人の考え方に触れることができます。

創造プログラミング演習は、4年生後期の週2コマで行われています。最初の週は、課題解決のアイデア創出に繋がる起業家精神や、グループで取り組む際の基礎となるチームビルディングを学びます。昨年度はチームビルディングを学ぶため、グループでのペーパータワーの作成を行いました。今年度は起業家精神を学ぶために、鶴岡高専の倉田先生にワークショップを実施していただきました。次の週には、久留米市役所の各担当部署を学生自身が訪問し、ヒアリングを行います。各課題の具体的な内容や背景、使用可能な情報や機材について説明を受けるとともに、疑問点について質問を直接行うことで、解決方法のアイデアの具体化に繋がります。具体化したアイデアについて、仕様書を作成した後に、それぞれのグループでスケジュールを立て、役割分担をしながら、課題を解決します。最終的には、作成した成果物について、成果報告会にてプレゼンテーションを行います。昨年度の成果報告会には、市の担当者やメンターをしていただいた企業の方にもご参加いただきました。

本演習によって、実際の課題に取り組むことで、これまで高専で学んできた基礎的な内容が昇華し、実社会で活用できる能力に繋がることを期待しています。



写真1 ペーパータワー作成の様子



写真2 起業家精神ワークショップ1



写真3 起業家精神ワークショップ2



写真4 R4年度成果報告会

専門学科の実験・実習の様子

生物応用化学科

生物応用化学科では低学年より実験・実習を設定し、科学技術の実際に触れることで、その理解を促すとともに、高学年ではさらに専門的な実験や卒業研究により、エンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。生物応用化学科の学生たちは以下のような実験・実習を通して、化学や生物学に関連する基礎的実験技術と実験データの解析方法、そして実験レポートの作成能力の習得を目指し、応用化学や生物化学の素養と実践的能力を伸ばしていきます。

【創造化学実験：1年】

化学物質及び生体物質を扱う生物応用化学の入門実験です。応用化学関連では、セッケン、ナイロンなど実際の化学製品を合成します。生物化学関連では植物の栽培、発酵（パン作り）などの実験を行います。

【分析化学実験：2年】

分析法が系統的に確立されている第1属～第3属陽イオンの定性分析を通して、薬品やガラス器具の使い方を修得し、金属イオンの反応を理解します。

【基礎生物化学実験：2年】

マイクロピペターの操作、ビタミンCの定量、緩衝液の調製、顕微鏡観察、酵素反応などを学びます。

【有機化学実験：3年】

有機合成化学実験の基本的な操作である混合、溶解、加熱、冷却、蒸留、再結晶、抽出などの方法を学びます。

【生物化学実験：3年】

微生物を中心とした生物の観察・同定や遺伝子工学のPCR実験などを通して、将来のバイオ工業技術者として必要な知識を体験的に学習します。

【応用化学実験、生物工学実験：4年】

これまでに学んだ応用化学や生物化学関連の専門知識並びに低学年での実験・実習を踏まえて、各研究室で行われている卒業研究を体験します。本実験の習得が5年生での卒業研究への糧となることを目標としています。

【卒業研究：5年】

各学生が独自の研究課題を持ち、指導教員の下で研究の背景を調査し、実験を行い、結果をまとめて考察し、発表（口頭発表・論文作成）する能力を身につけます。



材料システム工学科

材料システム工学科は「ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につける」ことを教育の奉仕としており、学習科目に対応した実験・実習が行われています。

1年生では、ものづくりの基礎を学ぶため、「材料加工実習」として材料加工に関する基礎的な実習を行います。ここでは、鋳造、鍛造、旋盤加工などの一般に行われている加工を学び、将来のエンジニアとしてのセンスを身につける科目となっています。また、危険な作業を安全に行うことができるように、安全に関する基本的なスキルを身につけていきます。

2年生から専門科目としての学生実験が始まります。「材料システム実験1」では、化学実験として、実験器具や分析機器の特性を理解し、取り扱うことができるように実験が組み入れられています。化学反応の基本である熱分解反応や沈澱反応などについて理解を深め、レポートの書き方を習得することを目的としています。また、3年生で開講される「材料システム実験2」では、金属材料に関する実験を行います。写真に示すような光学顕微鏡による組織観察や硬さ試験、引張試験など、基礎的な実験方法について学びます。

4、5年生で開講される「材料システム実験3、4、5」では、実験内容もさらに専門的かつ高度になります。座学で行われている講義内容に準じており、専門科目の理解を深めていくとともに複雑なデータ解析やより専門的な考察が必要となっています。また、卒業研究や教員の研究で利用する高度な実験装置や分析装置を活用した実験も行われ、これらの使用方法や解析方法を理解し、5年生での総まとめ科目となる「卒業研究」において活用できるような実験構成となっています。今後は企業と連携した実験項目も検討されており、社会ニーズに対応できる構成になっています。



学生会の取組

第58回高専祭を終えて

高専祭副実行委員長 戸嶋 貴大
浪瀬 絢友

第58回高専祭にご来場いただきありがとうございます。今年度は両日共天候に恵まれ、4000人弱の方々にご来場いただきました。開催にあたって、ご協力頂いたスポンサーはじめ外部の皆様、学内関係者の皆様、その他たくさんの方々には厚く御礼申し上げます。

副実行委員長の戸嶋です。今回の高専祭は両日10時間開演、ゲスト2組体制、スタンプラリー及び案内所の設置といった新しいことを行いました。スタンプラリーにより場内の回遊性が向上し、また本校は難解な建物の配置をしているため案内所を設置することで外部の来場者の方に分かりやすい高専祭になったかと思えます。高専祭での一番の不安要素は本祭の駐車場警備でした。駐車場は台数が限られている為、当初から厳しい状況になることは予想されており、対策を施していました。特に、本祭午前中の校門前は車と歩行者で入り乱れ、事故が起きてもおかしくない状態が続きました。しかし、実行委員や学内関係者様のご協力で、厳しい時間帯を事故なく乗り越えることができ大変感謝しています。また個人的な感想として、副実行委員長とは何かを考えさせられました。役職柄一定の決裁権や責任を持っている為、現場や関係各所の意見を総合的に鑑み、最適解をみつけ決断するといった場面が多く、自分自身を成長させることができたと思えます。そして何より、円滑な会場運営及び準備ができたのは実行委員全員のご協力や支えがあったからです。本当にありがとうございました。

副実行委員長の浪瀬です。私は1年生の時に友達に誘われて高専祭実行委員会に入りました。イベント部署で2年間過ごし、3年生の時には初めて副実行委員長という役割に就きました。そして副実行委員長2年目の今年。これまでの経験知識を振り絞り、困難な状況でも仲間と協力して自分史上1番の高専祭開催することが出来ました。高専祭準備中での新しい繋がりや出会い、交流も貴重な経験となりました。ご来場いただいた皆様の活気ある雰囲気や笑顔で楽しんでいる姿は、感動の瞬間でした。私たちの努力が報われた思いがしました。ステージイベントやバンド、公開実験に出店など、どれも私にとって忘れられない瞬間です。繰り返しになりますが、今回の高専祭に協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



体育祭を経て

体育祭実行委員長 緒方 孝公

令和5年度体育祭実行委員長を務めました緒方孝公と申します。僕が実行委員会に入った時は2年生であり、当初は、何も考えずに誰でもできるような活動しかしていませんでした。3年生の時も同じような感じでしたが、4年生になるころには同学年の実行委員が僕を含めて3人しかおらず、これまでより危機感をもって実行委員としての活動をしなければならぬ状況になりました。上級生としての責任感が芽生え、自分たちで考え人を動かし約1000人規模の体育祭を動かしていくという先輩方の光景を近くで見ることができ、今までの実行委員とは大変さも責任も考える規模も180度違ったことをしていたのだと実感しました。立場、視点が変わるだけで自分の中での考えが大きく変わり、来年度自分が実行委員長になると決まった時には不安なことだらけでした。



そんな不安は的中し、今まで主体だった上級生の不足、コロナの規制ほぼなしの4年ぶりの体育祭運営、そして当日の雨予報などたくさんの壁がありました。実行委員長になった最初の頃も進学の勉強や学科の卒業研究もある中、楽に当日まで至ったらいだろうという弱気な気持ちでしたが、実行委員長としてまとめ体育祭を作り上げていく中で、周囲の支えもあり、少しずつ準備をしていくうちにいつの間にか夜まで学校に残っていることもありました。それから何度も構想を練ったり、リハーサルしたり、主事室の先生方と打ち合わせをしたりと忙しかったけれど充実している日々を過ごすことができました。体育祭当日は危惧していた天候にも恵まれ運営も大変でしたが、コロナ禍以前と同等もしくはそれ以上の形に終えることができた強く感じています。実行委員長に自分になるなんてまるで予想ができませんでしたが、主事室の先生方、各学科の応援団長、安心できる後輩達、隣にいてくれた副実行委員長の神谷君、たくさんの人に支えられ自分が最後まで実行委員長でいることができ、自分自身体育祭という一つの行事を通じて人として大きな一歩を踏み出せたと思っています。4年間続けてきた実行委員の活動も終わりを告げてしまいましたが、来年度以降の久留米高専の伝統ある体育祭を後輩達が今年度を超えるよう作り上げてくれることを強く願っています。

課外活動報告

次なる挑戦

この度、久留米高专サッカー部は第56回全国高等専門学校サッカー選手権大会において、史上初の「優勝」を成し遂げることが出来ました。昨年は準優勝に終わったこの大会での1番大きな「忘れ物」を取りに行くことが出来たと思います。

結果だけ見ると、どの試合も快勝かのようにも思いますが、その道りは簡単なものではありませんでした。九州大会では、大会特有の雰囲気や呑まれ、初戦から接戦が続きました。でも、このチームの一体感、勝利に対する強い気持ち、数え切れない沢山の応援によってどんな試合も最後まで走り続けることが出来ました。また、今回の大会では登録メンバーの全員が試合に出場し、ほぼ全ての人に同じくらいの出場時間が与えられました。昨年に比べ、選手層を厚くしての優勝で、このチームの成長を強く実感することが出来ました。

これまでの道りは決して楽なものではなく、ほぼ全ての選手が高みを目指す中で、壁にぶつかり、試合や練習で上手くいかず、悔しさや苦しさを味わってきました。時には、練習で涙を流す選手もいました。ただ、そんな経験があったからこそ、数々の最高の思い出を手に入れることが出来たと思います。このメンバーで全国の舞台でプレーし、史上初の優勝を成し遂げることができたことを誇りに思います。

5年生はここで引退となりますが、後輩たちには常に目標と向上心を持って、頑張ってもらいたいと思います。そして、最後まで全力で久留米高专サッカー部として走り

サッカー部 主将 松田 弦己

続けて欲しいです。結果がどうであれ、最後まで目標に向かって走り続けた道りはどんなものより価値のあるものになると思います。このチームはどんな困難な事があっても諦めない。そして、乗り越えていく。どんな時も全力で目標に向かって走っていくチームです。これからも継続して頑張っていこうと思います！

最後になりましたが、日頃よりご指導、ご支援頂いております関係者の方々、久留米高专サッカー部を応援してくださっている全ての方々、皆様のおかげで今年も部活動を行うことができております。久留米高专サッカー部は福嶋監督をはじめとした顧問の先生方と共に「全国大会2連覇」を目指し、これからも頑張っていきます。全力で戦い抜きますので、これからも熱い応援よろしくお願いします！



全国大会を通して

私は以前より剣道を単なるスポーツではなく、心身を鍛錬し、礼儀作法を学べることが出来る、大変素晴らしいものだと思っています。

さて久留米高专剣道部の活動は練習、試合、そして文化祭などがあります。活動を通して昨年7月に行われた九州沖縄地区大会では27年ぶりの優勝という快挙を成し遂げました。これには言葉では言い表せないほどの喜びと達成感を感じ、長い時間練習を共に頑張ってきた部員達との努力の成果が実を結んだ瞬間でした。また同時に優勝が決まった瞬間、更に上のステージを目指して頑張ろうという気持ちも湧き上がりました。しかし、翌月

剣道部 主将 寺崎 凌駕

に行われた全国大会では思ったように勝ち上がることができませんでした。この2回の全国大会出場を通じ、まだまだ私たちには課題があり、より一層の努力が求められているのだと痛感させられました。そんな時にOB・OGの方々からのご声援、外部コーチの大隈先生のご指導やマネージャーの内村さんのマネジメント、指導の先生方の経験や知識のお陰で、私たち剣道部員は次のステージに向けて努力をし続けることができました。みなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

次年度は優勝した喜びと全国大会での経験を忘れずにさらなる成長を目指し、練習に励みます。それは個々の技術の向上はもちろんのこと、チームとしての結束力や戦略の練り直しも行い、より強いチームになるよう努力していきたいと思っています。

また、剣道部の活動は練習だけに留まらず、文化祭などのイベントにも積極的に参加し、剣道部ひいては剣道の魅力を広める活動も行っています。今では剣道は私にとって生活の一部であり、自分自身が成長する上で欠かせないものとなっています。そして九州沖縄地区での優勝や全国大会での経験は剣道の奥深さを改めて知ると同時に、自身の成長も感じるものとなりました。次年度はより一層剣道の高みを目指し、突き進んでいきたいと思っています。



各種コンテスト・体育大会結果 一覧

第60回九州沖縄地区高専体育大会の主な成績

(7月1日～11月14日)

競技種目	種目詳細	氏名	成績
陸上競技	男子 200m 走	岩崎 良太	2 位
	女子 800m 走	藤井 美咲姫	2 位
	男子 4 × 100m リレー		3 位
水泳	男子 800m 自由形	高木 琉成	3 位
	女子 100m バタフライ	小久保 礼奈	優勝
	女子 4 × 50m フリー		3 位
剣道	男子 団体		優勝
硬式野球			3 位
サッカー			優勝
バドミントン	男子 団体		3 位
バレーボール	女子		準優勝
ラグビー			優勝

<第58回全国高専体育大会(冬季)>

(12月24日～1月9日)

競技種目	種目詳細	氏名	成績
サッカー			優勝
ラグビー			3 位

<第十二回長崎県テコンドー選手権大会>

(6月18日)

表彰学生氏名	表彰内容	備考
久保田 孝平	一部組手 優勝	

<Ikenobo 花の甲子園2023 九州北大会>

(9月9日)

クラブ	メンバー氏名	成績
華道部	本村 彩乃、高井良 兼利、緒方 誠吾	2 位

<第19回全国日本学生室内飛行ロボットコンテスト>

(9月22日～9月24日)

クラブ	メンバー氏名	成績
鳥部	原 侑豊、川浪 聖奈、平原 綾馬 川崎 健太郎、小泉 伊央	マルチコプター部門 2 位 プロドローン賞

<第34回全国高専プログラミングコンテスト>

(10月14日～10月15日)

部門	メンバー氏名	成績
自由部門	近藤 碧、田中 伶佳、 梅林 直生、山福 桜綺	特別賞 AGEST企業賞 Blueship企業賞

<第56回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト>

表彰学生氏名	表彰内容	備考
浅川 麗央菜	暗唱部門 2 位	

令和5年度 大学編入学合格状況等

令和6年1月末現在

大 学 名	合 格 者 数					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	計
宇都宮大学（農）	—	—	—	1	—	1
筑波大学（生物資源）	—	—	—	1	—	1
東京農工大学（農）	—	—	—	1	—	1
金沢大学（機械工）	1	—	—	—	—	1
豊橋技術科学大学（工）	1	3	—	3	2	9
滋賀大学（経）	1	—	—	—	—	1
大阪大学（工）	—	2	—	—	—	2
神戸大学（工）	1	—	1	—	—	2
神戸大学（農）	—	—	—	1	—	1
広島大学（生物生産）	—	—	—	2	—	2
愛媛大学（農）	—	—	—	1	—	1
九州大学（工）	1	1	1	2	1	6
九州工業大学（工）	1	2	—	1	1	5
九州工業大学（情報工）	—	1	3	1	—	5
佐賀大学（理工）	—	2	—	1	—	3
佐賀大学（農）	—	—	—	2	—	2
熊本大学（工）	3	3	1	1	4	12
諏訪東京理科大学（工）	—	1	—	—	—	1
東京都立大学（システムデザイン）	—	—	1	—	—	1
上智大学（理工）	—	—	—	1	—	1
合 計	9	15	7	19	8	58

令和5年度 久留米高専専攻科合格状況

大 学 名	合 格 者 数					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	計
久留米高専専攻科（推）	4	4	6	4	4	22
久留米高専専攻科（学）前期	3	9	5	5	5	27
久留米高専専攻科（学）後期	2	2	3	—	1	8
合 計	9	15	14	9	10	57

令和5年度 専攻科・大学院合格状況

令和6年1月末現在

大 学 名	合 格 者 数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
北陸先端科学技術大学院大学	—	1	1
大阪大学大学院	2	—	2
九州大学大学院	6	4	10
九州工業大学大学院	4	—	4
合 計	12	5	17

令和5年度（令和6年3月）卒業予定者の就職内定状況

令和6年1月末現在

機械工学科	セイコーエプソン株式会社、ルネサスエレクトロニクス株式会社、ローム・アポロ株式会社、安川オートメーション・ドライブ株式会社、株式会社JALエンジニアリング、株式会社オーレックホールディングス、株式会社クボタ、株式会社タクマ、株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング、株式会社福井村田製作所、株式会社牧野フライス製作所、三菱重工業株式会社、昭栄化学工業株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、千代田化工建設株式会社、大陽日酸株式会社、東京エレクトロン株式会社、日清紡マイクロデバイスAT株式会社、日鉄ハードフェイシング株式会社、日本精工株式会社、富士フィルム株式会社、富士電機株式会社
電気電子工学科	オムロン株式会社、トヨタ自動車九州株式会社、ロームアポロ株式会社、株式会社エフエム山陰、株式会社ニコン、株式会社マツダE&T、株式会社明電エンジニアリング、九州電力株式会社、三浦工業株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、昭栄化学工業株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、西部電機株式会社、東京ガスネットワーク株式会社、日亜化学工業株式会社、日本放送協会、野里電気工業株式会社
制御情報工学科	CTCシステムマネジメント株式会社、TOPPANホールディングス株式会社、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社、ダイキン工業株式会社、チームラボ株式会社、株式会社AXSEED、株式会社 FIXER、株式会社スリーエイシステム、株式会社タマディック、株式会社ディスコ、株式会社ラック、株式会社日立システムズ、東芝デバイス&ストレージ株式会社、九州管区警察局
生物応用化学科	KMバイオロジクス株式会社、アステラス製薬株式会社、サントリーグループ、旭化成株式会社、花王株式会社、高砂香料工業株式会社、三洋化成工業株式会社、大日精化工業株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社、第一三共プロファーマ株式会社、日本たばこ産業株式会社、味の素株式会社
材料システム工学科	DOWAサーモエンジニアリング株式会社、JX金属株式会社、NOK株式会社、TANAKAホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、トーテックアメニティ株式会社、株式会社SUMCO、株式会社アーレスティ、株式会社ディスコ、株式会社資生堂、株式会社筑水キャニコム、京セラ株式会社、独立行政法人国立印刷局、日産自動車株式会社、日鉄プロセッシング株式会社、日本タングステン株式会社、日本精工株式会社、日本精工九州株式会社、富士ダイス株式会社、矢崎総業株式会社

令和5年度（令和6年3月）専攻科修了予定者の就職内定状況

令和6年1月末現在

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
AMECコンサルタンツ株式会社 シスメックス株式会社 ソフトバンク株式会社 テルモ株式会社 旭化成株式会社 株式会社FIXER 株式会社fusic 株式会社安川電機 大分キャノン株式会社 日清紡マイクロデバイスAT株式会社 富士フィルム株式会社	株式会社カネカ 株式会社資生堂 株式会社中山製鋼所 株式会社東洋新薬 大日精化工業株式会社 沢井製薬株式会社

企業名は順不同